

81.

Lotusblume.¹ (An die Mouſe)

Wahrhaftig, wir beide bilden
Ein furioses² Paar,
Die Liebste ist schwach auf den Beinen,³
Der Liebhaber lähm sogar.

Sie ist ein leidendes Kätzchen,⁴
Und er ist frank wie ein Hund,⁴
Ich glaube im Kopfe sind beide
Nicht sonderlich⁵ gesund.

Sie sei eine Lotusblume,
Bildet⁶ die Liebste sich ein;
Doch er, der blaſſe Geselle,
Vermeint der Mond zu sein.

Die Lotusblume erschließet⁷
Ihr Kelchlein im Mondenlicht,
Doch statt des befruchtenden⁸ Lebens
Empfängt sie nur ein Gedicht.

81. 1 la Mouſe の別の呼方。ハイネの晩年の介抱をした Camille Selden なる若い女は封筒に蠅を用ひたから Heine は Rosenname として la Mouſe と呼んだ。ハイネは此の者に對し密かなる戀愛を感じてゐた。肉體は腐りつつあつて、結實の生命を與へ得ない體である。

2 =sonderbar, seltsam

3 auf den Beinen fein=nicht zu Bett fein. Er ist gut auf den Beinen (彼は足が達者だ)。

4 magere, schwächtige Person の意。

81.

蓮

本當に私達二人は
妙な二人だ、
女は足が弱く
男はその上跛と來てゐる。

女は惱める猫
男は病める犬
何だか二人は頭の中が
あんまり確りしてゐないやうだ。

わたしは蓮の花よと
女は自惚れてゐる。
ところで青褪めた連合は
お月さんの意だ。

蓮は月光に
その蕾を開く、
だが結實の生命の代に
一個の詩を受けるのみ。

4 Hund はみじめな者である、病めば尙更。

5 特に。

6 =denken, vorstellen: ich bilde mir ein, daß ich bald sterben muß. 此の一聯を die Lotusblume ängstigt sich の詩並に、die schlante Wasserlilje と比較せよ。

7 =Verschlossenes öffnen: er hat mir das Verständnis dafür erschlossen.

8 =fruchtbringend machen: der Regen befruchtet das Land.

82.

Es kommt der Tod — jetzt will ich sagen,
Was zu verschweigen¹ ewiglich
Mein Etos gebot: für dich, für dich,
Es hat mein Herz für² dich geschlagen!

Der Sarg ist fertig, sie versenken
Mich in die Gruft. Da hab' ich Ruh'.
Doch du, doch du, Maria,³ du,
Wir'st weinen oft und mein gedenken.

Du ringst sogar die schönen Hände —
O tröste⁴ dich — das ist das Los,
Das Menschenlos: — was gut und groß
Und schön, das nimmt ein schlechtes Ende.

83.

Mein Tag war heiter, glücklich meine Nacht.
Mir jauchzte stets mein Volk, wenn ich die Leier¹
Der Dichtkunst schlug. Mein Lied war Lust und Feuer
Hat manche schöne Glüten angefacht.²

Noch blüht mein Sommer, dennoch eingebracht
Hab' ich die Ernte schon in meine Scheuer —

82. 1 = etwas in Schweigen verbergen.

2 方向。

3 La Mouche の事であらう。

82.

死が来る — 今こそ私は云はう
私の自尊心が永遠に黙すべく
命じた事を、實はお前にお前丈に
私の心はお前の爲に鼓動してゐたのだ。

棺桶も出來た 人々は私を
墓穴へ沈める。其處で私は安眠を有つ。
だがお前、だがお前、マリアよ、
お前は時々泣いて私を忘れないだらう。

お前はそれに美しい両手を揉むだらう
氣をもむな — それは運命、
人間の運命だ — 善良で偉大で美であつたもの
それは悪い最後を遂げる。

83.

俺の日は朗らか、夜も仕合だつた。
民衆はいつもやんやと喝采した、俺が詩の琴を
奏でた時は。俺の歌は快樂で火焰であつた、
多くの美しい焰を煽立てた。

まだ俺の夏は喫いてゐる、だがもう俺は
收穫を納屋に納めた —

4 ich tröste mich mit meiner Unschuld, über mein Unglück

83. 1 楽器の名、又は Gesang, Lied.

2 das Mädchen fäbt mir das Feuer an.

Und jetzt soll ich verlassen, was so teuer,
So lieb und teuer mir die Welt gemacht!

Der Hand entsinkt³ das Saitenspiel.⁴ In Scherben
Zerbricht das Glas, das ich so fröhlich eben
An meine übermüt'gen Lippen preßte.

O Gott!⁵ wie häßlich bitter ist das Sterben!
O Gott! wie süß und traulich⁶ läßt⁶ sich leben
In diesem traulich süßen Erdenneste!

Zeitgedichte.

84.

[Auf das geplante Denkmal Goethes
zu Frankfurt am Main.]

Hört zu, ihr deutschen Männer, Mädchen, Frauen,
Und sammelt Subskribenten¹ unverdrossen;²
Die Bürger Frankfurts haben jetzt beschlossen:
Ein Ehrendenkmal Goethen zu erbauen.³

„Zur Meßzeit⁴ wird der fremde Krämer schauen,“ —
So denken sie, — „daß wir des Mann's Genossen,

3 = entfallen: der Brief entfiel seiner Hand.

4 = Saiteninstrument.

5 Gott は單なる咏嘆。

6 = gemütlich, vertraut.

6 Hier lebt es sich gut = Hier läßt es sich gut leben ここは
暮しよい。

そして今や俺は棄てねばならぬ
世間を俺に斯くも貴重ならしめたものを。

手から琴は落ちる。酒杯は
粉々に割れる。それを俺はさしも嬉しく
今 誇る唇に押當てたばかりだつたが。

おお、死の如何に苦しく呪はしき事よ。
おお、いかに甘くなつかしく住へる事よ
此のなつかしく甘き地上の巢の中は。

Zeitgedichte.

84.

計画されたゲエテ記念碑に

聽け、諸君、獨逸の男女よ
そして屁古垂れず署名者を集めろ、
フランクフルトの市民は今決議したぞ
ゲエテの記念碑を建立しようと。

「メッセの時に他所から来る商人が見るだらう」
と考へたのだ「俺達がゲエテの仲間あつた事

84. 1 Unterſchreiber. 署名者。

2 ひるます、倦ます、厭はず。

3 ich habe mir ein Haus erbaut (=aufgebaut).

4 市場の立つ時。其の時 Krämer (小賣商人) は商屋から卸すのである。

Daß unserm Mist⁵ solche Blum' entsprossen,
Und blindlings wird man uns im Handel trauen."

O, laßt dem Dichter seine Lorbeerreiser,⁶
Ihr Handelsherrn! Behaltet⁷ euer Geld.
Ein Denkmal hat sich Goethe selbst gesetzt.

Im Windelschmutz⁸ war er euch nah'; doch jetzt
Trennt euch von Goethe eine ganze Welt,
Euch, die ein Flüßlein trennt vom Sachsenhäuser.⁹

85.

Die schlesischen¹ Weber.

Im düstern Auge keine Träne,
Sie sitzen am Webstuhl und fletschen² die Zähne:
„Deutschland, wir weben dein Leinentuch,
Wir weben hinein den dreifachen Fluch —
Wir weben, wir weben!

„Ein Fluch dem Gotte, zu dem wir gebeten
In Winterskälte und Hungersnöten;³
Wir haben vergebens gehofft und geharrt,⁴

⁵ 粪。⁶ das Reis, die Reiser.⁷ 出さずにおけ。⁸ 榻襟。⁹ Sachsenhausen の住民。マイン河によつて Frankfurt から距てられてゐる。

俺達のやうな掃溜から、あんな鶴の生れた事を、
そしたら矢鱈に取引上俺達を信用するだらう」

おお詩人には月桂冠を任せろ
君等商賣人達よ！金は引込めろ。
ゲエテは自ら記念碑を建ててゐる。

お櫻襟の中では彼は君等に齊しかつた、だが今
君等をゲエテから距ててゐるのは天地霄壤だ
小河がザツクセンハウゼン人から君等を距ててゐるが。

85.

シユレエジエンの機織

陰惱な目の中には涙も無く、
彼等は機に坐して歯を剥出す
獨逸國よ、おれ達は貴様の經帷子を織る
中に三重の呪咀を織込む
おれ達は織る おれ達は織る

神に呪あれ、その者に向つておれ達は祈つたが
冬の寒さに餓のせつなさに、
望んだ事も待つた事も無駄だつた

85. 1 此の詩の外的動機は 1844 年に於ける Silesien の機織の大窮乏、及び其の爲の騒動が與へたのである。社會思想家、豫言者としての Heine が現れてゐる。

2 die Zähne fletschen は成句で齒をむき出す意。

3 Hungersnot=Mangel an Lebensmitteln.

4 sie harzte auf mich; er harzt meiner, der Nachricht.

Er hat uns geäfft⁵ und gesoppt und genarrt —
Wir weben, wir weben!

„Ein Fluch dem König, dem König der Reichen,
Den unser Elend nicht konne erweichen,⁶
Der den letzten Groschen von uns erpreßt,⁷
Und uns wie Hunde erschießen⁸ läßt —
Wir weben, wir weben!

„Ein Fluch dem falschen Vaterlande,
Wo nur gedeihen Schmach und Schande,
Wo jede Blume früh gefnißt,⁹
Wo Fäulnis¹⁰ und Mader¹⁰ den Wurm erquidt —
Wir weben, wir weben!

„Das Schiffchen¹¹ fliegt, der Webstuhl tracht,
Wir weben emsig¹² Tag und Nacht —
Altdeutschland, wir weben dein Leichentuch,
Wir weben hinein den dreifachen Fluch,
Wir weben, und weben!

5 =zum Narren machen, soppeln, betrügen=narren, nären,
j. zum Narren haben.

6 =weich machen: seine Tränen haben mich erw iht.

7 =durch Pressen erhalten: ih habe von ihm das Geld,
ein Geständnis erpreßt; er hat mir dadurch viele Tränen
erpreßt.

神はおれ達をさんざんに馬鹿にしたのだ
おれ達は織る おれ達は織る

王に呪あれ 富者の王に、
其の者をおれ達の不幸が柔げ得なかつた故、
其の者は最後の金錢を搾取し、
おれ達を犬のやうに射殺せしめる
おれ達は織る おれ達は織る

偽れる祖国に呪あれ
其處では汚辱と破廉恥とのみが榮え
花は早く凋み
腐敗が蛆虫を喜ばしてゐる —
おれ達は織る おれ達は織る

梭は飛び 機臺は破れる
おれ達は朝から晩迄、いそしむ
古き獨逸、おれ達は貴様の経帷子を織る
おれ達は三重の呪咀を織込む
おれ達は織る そして織る

8 totschießen.

9 die Rose ist gefnißt (現在完了) 薔薇が凋んで折れた。

10 =Verweisung.

11 梭。

12 unermüdet.

86.

Mittelalterliche Roheit
Weicht dem Aufschwung schöner¹ Künste:
Instrument moderner Bildung
Ist vorzüglich das Klavier.

Auch die Eisenbahnen wirken
Heilsam aufs Familienleben,
Sintemal² sie uns erleichtern
Die Entfernung von der Sippschaft.

Wie bedaur' ich, daß die Darre
Meines Rückgratmark's mich hindert,
Lange Zeit noch zu vertreiben
In dergleichen³ Fortschrittswelt!

86.

中世紀的粗野は
藝術の勃興の前に辟易して去つた、
近代教化の器具は
殊にピアノだ。

鐵道も亦家庭生活の上に
効用あるもの
親族との距離を
短縮するから。

遺憾乍ら私の脊髓の癆症が
私を防碍する
かかる進歩の世界に
まだ長く止る事を。

86. 1 schöne (oder freie) Künste は古昔自由人が營みそれに
對する Handwerk や他の業務は奴隸がなした。

2 Seit einmal, seit(e)mal. 理由を示す。英國の since.
3 不變化の形容詞 dergleichen Welt=derartige Welt.

昭和三年二月十五日第一刷印行

昭和三年二月二十日第一刷發行

不許復製

有

郁文堂對譯叢書第二十七編

「ハイネ珠玉集」

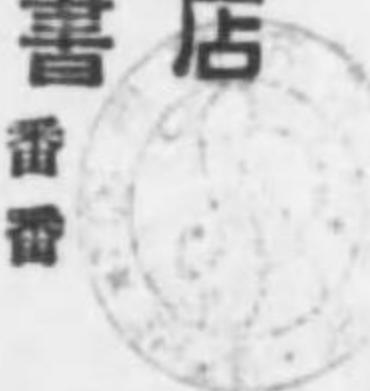
定價金臺圓三十錢

譯註者 藤森秀夫

東京市本鄉區森川町一番地
發印行兼者 大井久五郎

東京市本鄉區森川町大學正門前
發行所 郁文堂書店

電話小石川二一五八番
振替東京一四九八一番



郁文堂 訳 獨和對譯叢書

1	獨和 村のロメオとジュリア	上村 滉廷 ケラ一 ヘッベル 価一・三〇	クラーの傑作中最も有名であり又一般に最も愛を描いたもの。坊間行はるゝ類書と雲泥の差あるを知らん。
2	獨和 わが幼年時代	佐久間政一 ヘッベル 価一・二〇	獨逸近代戯曲の大作家として謹聖流暢の如きあるを知らん。
3	獨和 獨逸近代名詩選	藤森 秀夫 ヘッベル 価一・八〇	重なる人達の傑作を譯出せるもの加ふるに親切なる解説詳註を以てせり。
4	獨和 悲劇サツフオ	藤尾英四郎 グリルバル 価一・二〇	獨逸の花咲く希臘に咲き出でたるミューズの神サツフオと美青年ファオンとの悲戀を描く。
5	獨和 エミリア・ガロツティ	益田 國基 ヘルベル 価一・一〇〇	アルベルトの傑作を譯出せしもの。加ふるに親切なる解説詳註を以てせり。
6	獨和 獨逸現代詩人選	藤森 秀夫 ヘッベル 価一・二〇	本書は物語としてでなく重に語學的研究者たるもの。譯文又脚注を質く。
7	獨和 ギイゲスと彼の指輪	益田 國基 ヘルベル 価一・三〇	本書は獨逸文壇に於ける代表的傑作にして始める評議が最妥當されてゐる。
8	獨和 ゲーテ短篇集	益田 國基 ヘルベル 価一・二〇	本書は獨逸文壇に於ける代表的傑作にして始める評議が最妥當されてゐる。
9	獨和 ゲーテ短篇集	益田 國基 ヘルベル 価一・三〇	本書は獨逸文壇に於ける代表的傑作にして始める評議が最妥當されてゐる。
10	獨和 ゲーテ短篇集	益田 國基 ヘルベル 価一・二〇	本書は獨逸文壇に於ける代表的傑作にして始める評議が最妥當されてゐる。
11	獨和 ゲーテ短篇集	益田 國基 ヘルベル 価一・二〇	本書は獨逸文壇に於ける代表的傑作にして始める評議が最妥當されてゐる。
12	獨和 ゲーテ短篇集	益田 國基 ヘルベル 価一・二〇	本書は獨逸文壇に於ける代表的傑作にして始める評議が最妥當されてゐる。
13	獨和 ゲーテ短篇集	益田 國基 ヘルベル 価一・二〇	本書は獨逸文壇に於ける代表的傑作にして始める評議が最妥當されてゐる。
14	獨和 ゲーテ短篇集	益田 國基 ヘルベル 価一・二〇	本書は獨逸文壇に於ける代表的傑作にして始める評議が最妥當されてゐる。
15	獨和 ゲーテ短篇集	益田 國基 ヘルベル 価一・二〇	本書は獨逸文壇に於ける代表的傑作にして始める評議が最妥當されてゐる。
16	獨和 ゲーテ短篇集	益田 國基 ヘルベル 価一・二〇	本書は獨逸文壇に於ける代表的傑作にして始める評議が最妥當されてゐる。
17	獨和 ゲーテ短篇集	益田 國基 ヘルベル 価一・二〇	本書は獨逸文壇に於ける代表的傑作にして始める評議が最妥當されてゐる。
18	獨和 ゲーテ短篇集	益田 國基 ヘルベル 価一・二〇	本書は獨逸文壇に於ける代表的傑作にして始める評議が最妥當されてゐる。

18	獨和 ゲーテ短篇集	吹田 順助 ケラ一 テ 価一・二〇	本書は獨逸文壇に於ける代表的傑作にして始める評議が最妥當されてゐる。
17	獨和 ゲーテ短篇集	伊太利紀行 ケラ一 テ 価一・二〇	本書は獨逸文壇に於ける代表的傑作にして始める評議が最妥當されてゐる。
16	獨和 ゲーテ短篇集	伊太利紀行 ケラ一 テ 価一・二〇	本書は獨逸文壇に於ける代表的傑作にして始める評議が最妥當されてゐる。
15	獨和 ゲーテ短篇集	伊太利紀行 ケラ一 テ 価一・二〇	本書は獨逸文壇に於ける代表的傑作にして始める評議が最妥當されてゐる。
14	獨和 ゲーテ短篇集	伊太利紀行 ケラ一 テ 価一・二〇	本書は獨逸文壇に於ける代表的傑作にして始める評議が最妥當されてゐる。
13	獨和 ゲーテ短篇集	伊太利紀行 ケラ一 テ 価一・二〇	本書は獨逸文壇に於ける代表的傑作にして始める評議が最妥當されてゐる。
12	獨和 ゲーテ短篇集	伊太利紀行 ケラ一 テ 価一・二〇	本書は獨逸文壇に於ける代表的傑作にして始める評議が最妥當されてゐる。
11	獨和 ゲーテ短篇集	伊太利紀行 ケラ一 テ 価一・二〇	本書は獨逸文壇に於ける代表的傑作にして始める評議が最妥當されてゐる。
10	獨和 ゲーテ短篇集	伊太利紀行 ケラ一 テ 価一・二〇	本書は獨逸文壇に於ける代表的傑作にして始める評議が最妥當されてゐる。
9	獨和 ゲーテ短篇集	伊太利紀行 ケラ一 テ 価一・二〇	本書は獨逸文壇に於ける代表的傑作にして始める評議が最妥當されてゐる。
8	獨和 ゲーテ短篇集	伊太利紀行 ケラ一 テ 価一・二〇	本書は獨逸文壇に於ける代表的傑作にして始める評議が最妥當されてゐる。
7	獨和 ゲーテ短篇集	伊太利紀行 ケラ一 テ 価一・二〇	本書は獨逸文壇に於ける代表的傑作にして始める評議が最妥當されてゐる。
6	獨和 ゲーテ短篇集	伊太利紀行 ケラ一 テ 価一・二〇	本書は獨逸文壇に於ける代表的傑作にして始める評議が最妥當されてゐる。
5	獨和 ゲーテ短篇集	伊太利紀行 ケラ一 テ 価一・二〇	本書は獨逸文壇に於ける代表的傑作にして始める評議が最妥當されてゐる。
4	獨和 ゲーテ短篇集	伊太利紀行 ケラ一 テ 価一・二〇	本書は獨逸文壇に於ける代表的傑作にして始める評議が最妥當されてゐる。
3	獨和 ゲーテ短篇集	伊太利紀行 ケラ一 テ 価一・二〇	本書は獨逸文壇に於ける代表的傑作にして始める評議が最妥當されてゐる。
2	獨和 ゲーテ短篇集	伊太利紀行 ケラ一 テ 価一・二〇	本書は獨逸文壇に於ける代表的傑作にして始める評議が最妥當されてゐる。
1	獨和 ゲーテ短篇集	伊太利紀行 ケラ一 テ 価一・二〇	本書は獨逸文壇に於ける代表的傑作にして始める評議が最妥當されてゐる。

究研法譯獨

英對
獨照

二、高 文學士 佐久間政一著

四六版錦布上製函入
定價金圓參拾錢·送洋拾圓錢

從來高等學校や各種の専門學校の初年級に於て獨文和譯の教授に際して採られて来た方法には甚だ遺憾な點が多かつた。著者は多年の経験上、學生が既に體得してゐる英語の知識を活用し、英文の組織、構造と彼此對照比較して獨文解釋の要諦を會得せしめるのを捷徑とし今次特にこの書を著はされた。先生の此の試みは從來考案され實行され來つた何れの方法より遙かに良好の成績を挙げつゝあり、その效果の著しいことは先生の授業に於いて何より證據立てられてゐる。之に依つて學生は難解と嘆される獨文を既得の知識を利用して容易に讀破する關鍵を得べく、又折角多年學習した英語をも常に之を動かして使つて行くことが出來、一舉兩得の便益を享けることが出来る。何れにせよ本邦には嘗て類書を見ない好著述で、この書一度出でてオットーのヂヤーマンコースの如きは影を潜めることと思ふ。獨逸語に縁ある士はその教授に携はると學習に従事するを間はず、是非一本を仰へられんことを望む。

22.11.16

24.11.16

293

323-464-(27)



1200501379161

1

終